

社団法人日本新体操連盟
平成 23 年度第 1 回理事会議事録

1. 会議名： 平成 23 年度第 1 回理事会
2. 日時： 平成 23 年 6 月 27 日（月）10 時 00 分～10 時 30 分
3. 場所： 東京都渋谷区代々木 2-2-1
「小田急ホテルセンチュリーサザンタワー・21F イーストルーム」
4. 構成員現在数： 17 名
5. 出席役員： 二木 英徳（会 長）朝倉 正昭（副 会 長）石崎 朔子（副 会 長）
福本 隆（副 会 長）荒井 隆（専務理事）渡辺 守成（常務理事）
池田真喜子（理 事）上村 郁代（理 事）崇島 慎一（理 事）
谷口 裕代（理 事）橋本 千波（理 事）藤島八重子（理 事）
山崎 浩子（理 事）
関田史保子（常務理事）岡 久留実（理 事）谷原 誠（理 事）
岩本 晃（監 事）田中 元（監 事）
以上 16 名（うち委任状出席 3 名）
その他監事 2 名（うち委任状出席 2 名）
6. 欠席役員： 秋山エリカ（理 事）
以上 1 名
7. 議案：
決議事項
第 1 号議案 平成 23 年度第 1 回総会について（定款第 5, 29, 39 条関連事項）
第 2 号議案 その他

8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

(社)日本新体操連盟・定款第 24 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第 32 条により、議長は議事録署名人を福本隆副会長と荒井隆専務理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第 25 条の定めにより、理事会出席者数委任状含めて 16 名であることが山崎理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、池田理事が進行を務めるよう依頼した。

(5) 議決事項

第 1 号議案 平成 23 年度・第 1 回総会について(定款第 5, 29, 39 条関連事項)
議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 総会について

「社団法人日本新体操連盟平成 23 年度第 1 回総会」が 6 月 27 日月曜日午前 11 時に開催する。報告内容の確認、スケジュール確認等を行いたい。

2. 平成 22 年度登録状況報告について

平成 22 年度は

加盟団体数	577 団体
登録選手数	9,036 名
愛好者数	34,397 名
審判員数	1,173 名
指導者数	1,436 名

であった。

3. 「第 19 回全日本新体操クラブ選手権」について

8 月 29 日から 31 日に東京都「東京体育館」にて開催された。
参加者は 191 クラブ 573 名が参加した。

大会では「イオン」が 3 年ぶり 17 回目の優勝、個人戦ではシニアで山口留奈選手、ジュニアで早川さくら選手が初優勝を遂げた。

全日本選手権にはシニア上位 12 名が出場権を獲得した。

4. 「第 10 回全日本新体操クラブ団体選手権」について

9 月 11、12 日東京都「東京体育館」にて開催された。
参加者は 120 クラブチーム 740 名が参加した。

競技では、「シニアの部」で「インタークオレス」が 9 回大会の 3 位より、ランクアップし、初優勝を飾った。「ジュニアの部」では「すみれ R G」が初優勝を飾った。
全日本選手権へは、「シニアの部」上位 3 チームの「インタークオレス」「N P O ぎふ新体操クラブ」「すみれ R G」が出場権を獲得した。

5. 「イオンカップ 2010 世界新体操クラブ選手権」について

大会は 10 月 8 日から 10 日にかけて「東京体育館」にて開催された。

競技では、カナエワ選手、コンダコワ選手擁する、ロシアの「ガスプロム」が 11 回連続 13 回目の優勝を飾った。
シニアではカナエワ選手が 2 回連続 2 回目の優勝、ジュニアでもロシアのスワトコフスカヤ選手が初優勝を飾った。

日本選手団では、「イオン」がイオンカップ史上日本チーム最高の 4 位入賞を果たし、個人でも山口選手が 8 位、ジュニアでは早川選手が 6 位に入賞した。

6. 「第 11 回日本新体操祭」

「イオンカップ」2 日目の 10 月 9 日「東京体育館」で開催した。
参加者数は 51 クラブ 1731 名であった。

7. 「第13回全日本新体操チャイルド選手権」

「第10回全日本新体操キッズコンテスト」について

今回は410クラブ925名の参加者を集め、2月25日から27日にかけて「東京体育館」にて開催した。

5・6年生の部で「エンジェルR Gカガワ日中丸亀」の栗林 楓選手が初優勝。

3・4年生の部で「エンジェルR Gカガワ日中」の喜田 純鈴選手が前回大会に引き続き2回連続優勝を果たした。

8. 「平成22年度セミナー」について

「初級集中講義」を2回

「上級セミナー」を5回

「審判セミナー」を3回

実施した。

9. 収支予算について

「日本新体操祭」について

平成21年度「スポーツ健康フェスタ」と同時開催した「日本新体操祭」を22年度では「イオンカップ」と同時開催した。参加者が増え、予算より約100万円多い506万1792円の収入があった。

「バッジテスト」について

22年度において、すぐに開催が出来る様90万円の予算を組んでいたが、継続審議する事となり、収入支出ともに0円となっている。

「世界新体操クラブ選手権」について

予算については昨今の経済状況をふまえ、スポンサー収入の減少など見積もって予算を組んでいたが、皆様の協力もあり、予算より約2000万円ほど多い収入があった。支出については、テレビ朝日の放映権購入費用、宿泊費用の高騰、FIG技術委員会費など、約1億9400万円の支出となった。

「全日本クラブ選手権」について

収入予算を昨年実績から考慮し、1000万円と見込んでいたが、参加料、チケット収入、販売等が貢献し、予算より300万円多い、1298万3326円の収入であった。

支出では21年度の「スポーツ健康フェスタ」との連続開催に伴い発生した費用が無くなったことや、経費削減などで、予算より100万円減の1021万7781円の支出となった。

「指導者海外研修会」について

「指導者育成海外セミナー」では、世界強豪国と交渉を進めたが、セミナー時期に大会が重なり、強豪国に受け入れてもらうことが出来ない為、22年度はセミナー開催中止となった。よって、収入、支出ともに0円計上となっている。

10. 合計

以上により、平成22年度事業活動収入合計は2億5404万703円。事業費支出計が2億2349万688円。管理費がほぼ予算計上通りで3328万6494円。事業費支出と管理費を合わせ、2億5677万7182円が22年度の支出合計となった

22年度収入から、支出を差し引きマイナス273万6479円が当期収支差額となった。

前期繰越金 1942 万 5374 円から当期収支差額マイナス 273 万 6479 円を差し引いた 1668 万 8895 円が次期繰越となった。

11. 貸借対照表、財産目録

22 年度は流動資産が約 311 万円のマイナス、負債が約 38 万円のマイナス。
よって、平成 23 年 3 月 31 日時点の正味財産は昨年度より、273 万 6479 円減少し、基本財産、資産等含め 3831 万 2951 円となった。

12. 監事承認

この決算内容は本連盟監事兩名より、承認いただいていることを合わせて報告する。

以上の説明の後、議長は質疑、意見等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第 1 号議案「平成 23 年度・第 1 回総会」について可決された。

第 2 号議案「その他」について

1. 公益法人制度改革について

二木会長が議場に、「公益法人制度改革」について方向性の確認を行い、日本新体操連盟としては、日本新体操界、並びに本会の発展のためにも、公益社団法人を目指すことを再確認した。

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

(5) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 23 年 6 月 27 日

社団法人 日本新体操連盟 平成 23 年度第 1 回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 福 本 隆

同 荒 井 隆